2027年3月期
中間決算説明会
（2026.04.01～2026.09.30）

JBCCホールディングス株式会社
証券コード：9889（東証プライム市場 情報・通信業）

2026年10月30日

この資料は、10月29日に開示した決算説明資料より抜粋したものです。

AGENDA

- 2027年3月期　中間決算概要
  　および中期経営計画「CHALLENGE 2026」進捗
- AI時代におけるJBCCグループの成長戦略とその進捗

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

エグゼクティブサマリー

5期連続増収増益・6期連続最高益を見込む

01

上期営業利益率 11.1%
中期経営計画目標達成を見込む

- 収益性が前年同期比で大きく改善
  - 営業利益率 ⬆1.5pts
  - 営業利益 ⬆21.5%
- サービス事業の成長が寄与

02

クラウド・セキュリティ新規受注
過去最高を更新

- 新規顧客獲得に加えて案件大型化が進展
- 売上高前年同期比
  - クラウド ⬆37%（市場成長の2倍）
  - セキュリティ ⬆29%（市場成長の5倍）

03

AI時代における
成長戦略とその進捗

- AIサービスモデル構想を発表（4月）
- データ分析基盤の検証支援サービスを発表(7月)
- CITによる業務課題起点アプローチを加速

売上高
39,313百万円
前年同期比 ⬆4.9%

営業利益
4,382百万円
前年同期比 ⬆21.5%

営業利益率
11.1%
前年同期比 ⬆1.5pts

ストック売上比率
57.6%
中計目標60%

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

2027年3月期　上期　事業セグメント別概況

サービス　注力事業のクラウド、セキュリティが市場成長を大きく上回り増収増益を牽引

ＳＩ　戦略投資へのリソースシフトを推進し、段階的に拡大

システム　ハードウェア仕入価格上昇分の価格転嫁と選別受注により収益性改善

（百万円）

事業セグメント（各事業分野に含む注力事業）	2027年3月期　上期					
	売上高	前年同期比	売上総利益	前年同期比	売上総利益率	前年同期比
情報ソリューション	38,296	⬆5.4%	12,539	⬆9.9%	32.7%	⬆1.4pts
サービス（クラウド、セキュリティ）	23,843	⬆13.2%	7,982	⬆20.2%	33.5%	⬆1.9pts
SI（超高速開発）	8,989	⬇4.9%	3,241	⬇8.6%	36.1%	⬇1.5pts
システム	5,463	⬇6.4%	1,315	⬆8.1%	24.1%	⬆3.2pts
製品開発製造	1,016	⬇9.2%	438	⬇23.1%	43.2%	⬇7.8pts
合計	39,313	⬆4.9%	12,978	⬆8.4%	33.0%	⬆1.0pts

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

注力事業 クラウド ー 市場成長を大きく上回る成長

2027年3月期上期 実績

売上高・新規受注 過去最高更新

売上高

9,232百万円

前年同期比 ⬆36.9%

新規の月額受注高

248.9百万円／月

前年同期比 ⬆16.0%

売上総利益率

前年同期比 ⬇0.8pts

業績概要

- AWS・Azure・GCP提供「EcoOne」(IaaS)と「Microsoft 365」(SaaS)の新規受注がともに好調に推移
- 「Microsoft Copilot」の受注拡大が顕著　前年同期比 3.8倍

市場／需要

国内パブリッククラウドサービス 2025-2030 CAGR17.6% 成長予想※

- サーバー機器の値上げ・納期遅延やVMware製品(仮想化ソフトウェア)のコスト増大がクラウド移行を後押し
- AI活用の広がりを背景に、ITインフラ整備・データ活用・ガバナンス確保の新たなニーズ拡大
- 「個人利用での効率化」から「企業利用での価値創造」へとAI活用の目的がシフト、AIエージェントの稼働基盤としてクラウドの重要性の高まり

強み／競争優位

- IaaS: 運用およびコスト最適化機能を備えたマルチクラウドサービス「EcoOne」と提案力
- SaaS: 無償ワークショップによる利活用支援　Microsoft 365・Copilot／kintone／Box(オンラインストレージ)
- AIおよびセキュリティ領域のマイクロソフト上位パートナーに認定(8月)、4月のAzure領域に続く認定
  「Microsoft 365 Copilot」Specialization ／「Cloud Security」Specialization

今後の戦略　個人利用から企業全体・業務プロセス全体への活用拡大を支援

- 「Microsoft 365」を契機に「Microsoft Copilot」による生成AIの活用や「Microsoft Fabric」を活用したデータ分析基盤構築の検証支援サービス開始(7月)、早期に3件受注獲得
- 企業の専用環境でAIエージェントを作成・利用・運用できる統合基盤の提供を開始(11月)、全操作の記録やアクセス管理など、ガバナンスとセキュリティを確保し、企業が説明責任を果たせる状態で利用可能
- マルチクラウドの特長を活かし、機能・運用・コストの観点から最適なマルチクラウド環境を継続提案

出典：IDC 国内パブリッククラウドサービス市場予測、2026年～2030年、Doc#JPJ53498826、2026年3月

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

注力事業 セキュリティ ー 市場成長を大きく上回る成長

2027年3月期上期 実績

売上高・新規受注 過去最高更新

売上高
5,920百万円
前年同期比 ⬆29.1%

新規の月額受注高
129.1百万円／月
前年同期比 ⬆6.7%

売上総利益率
前年同期比 ⬆1.8pts

業績概要

- 脅威分析・対応（EDR／XDR）やクラウドセキュリティ（SASE／CASB／SWG）の新規受注が好調に推移

市場／需要

国内マネージドセキュリティサービス 2025-2030 CAGR5.2% 成長予想※

- ランサムウェアやWebサイトを標的とした不正アクセスなどのサイバー攻撃が激化、攻撃側のAI悪用によるさらなる脅威の高まり
- 第三者による監査・診断、ゼロトラストへの移行、生成AIやオンラインストレージの利用拡大に伴う情報漏洩対策など、企業のセキュリティ対策ニーズは範囲を広げながら継続して拡大

強み／競争優位

- ITインフラやクラウドのスキルを備えたセキュリティエンジニアが強み
  - 脆弱性診断から対応ロードマップを策定した全体最適提案
  - ITインフラやクラウドの知見を活かし、インシデント発生時の復旧まで一貫した支援
- お客様環境を熟知したセキュリティエンジニアと常時監視・一次対応を担うSOC*との連携による高度な分析・対応力

*Security Operation Center: セキュリティアナリストを有する24時間365日体制の運用センター

今後の戦略 AI時代の脅威に、検知から対処まで一気通貫で対応

- リスキリングを通じ、ITインフラやクラウドのスキルを備えたセキュリティエンジニアのAIスキル習得を推進
- 将来的にはAIを活用した高度な相関分析により、脅威の検知から隔離・遮断などの初動対応までを自動化し、高付加価値サービスを拡充
- 経済産業省の新制度「サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度」の評価項目に対応したアセスメントから対策まで一貫して対応

出典：IDC 国内セキュリティサービス市場予測、2026年～2030年、Doc#JPJ53503326、2026年4月

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

超高速開発 ー 進行中のプロジェクトを確実に完遂

2027年3月期上期 実績

売上高
3,673百万円
前年同期比 ⬇15.2%

超高速開発比率
51.2%
前年同期比 ⬇7.2pts

売上総利益率
前年同期比 ⬇5.3pts

業績概要

- 期初計画に沿った進捗(売上高進捗率 実績 50.7%／計画 50%)
- 戦略投資を推進するため、新規受注を一部抑制

市場／需要

国内ITモダナイゼーションサービスリビルド 2025-2030 CAGR16.2% 成長予想※

- 大企業・中堅企業の約8割がレガシーシステムを保有(2025年時点)
- ビジネスプロセス変革を見据えたリビルド対応の需要拡大

強み／競争優位

- 一次請け(プライム)に特化して、基幹業務システムを上流工程から運用まで一貫して提供
- 長年のシステム開発実績を基に、独自の開発手法「JBアジャイル」とローコード開発やAI駆動開発を組み合わせることで、短納期・高品質なシステム開発を実現
- 標準化と自動化による個人のスキルに依存しない組織的な開発体制

今後の戦略 戦略投資を推進し、SI事業モデルを変革

- システム開発を自律的に行なう「SIエージェント*」により、高品質なシステムの提供と顧客企業の経営変革を支援
  - 上流工程向けエージェントの作成を推進、11月よりお客様の開発案件での実証実験を開始
  - JBアジャイルの知見とお客様固有の業務ならびにシステム情報を長期記憶から参照し、成果物を高精度化
  - SIエージェントの適用を開発やテスト、運用や保守へと拡大

*SIエージェント:長期記憶技術の活用により、開発の各工程を自律的に行うAIエージェントの集まり(エージェント群)

出典: IDC 2026年 国内ITモダナイゼーション市場動向、Doc#JPJ53875726、2026年2月

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

2027年3月期　業績予想

- 中期経営計画の最終年度として、営業利益率11%以上を含む計画目標達成の見通し
- クラウド・セキュリティの継続的な成長と収益性の改善
- AIサービスモデル構想による価値提供を加速、次なる成長ステージへ

売上高	営業利益	親会社に帰属する当期純利益	1株当たり配当金
795億円	営業利益率 11%以上 87億円	60億円	60円
前期比 ⬆4.6%	前期比 ⬆19.7%	前期比 ⬆12.9%	前期比 ⬆18円増配

- 5期連続増収増益
- 6期連続最高益
- 6期連続増配

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

AGENDA

- 2027年3月期　中間決算概要
  および中期経営計画「CHALLENGE 2026」進捗
- AI時代におけるJBCCグループの成長戦略とその進捗

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

JBCCグループのAIサービスモデル構想 ー Team × Platform

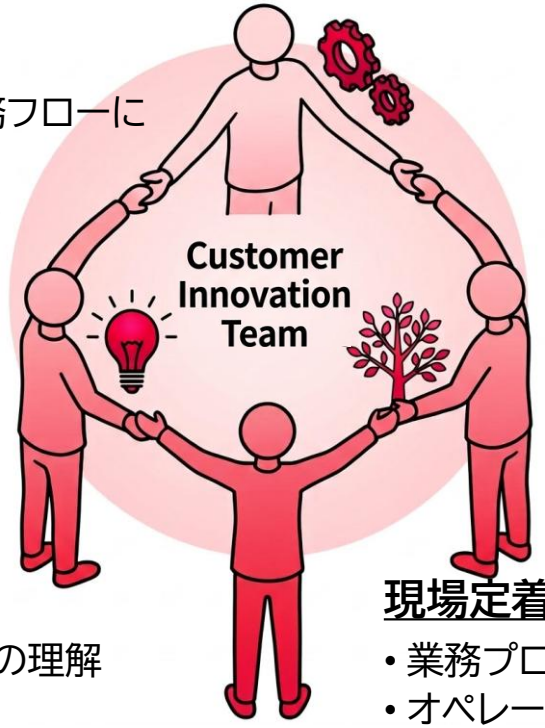
2026年5月公表
再掲

- 私たち自身がAIを前提に社内業務プロセス・働き方を再設計し、その実践知をお客様価値に転換
- Team で現場に入り、“使い続けられる” Platformを提供
- アセットの活用 → 蓄積 → 再活用のサイクルで、付加価値を継続的に向上

Customer Innovation Team

FDEをモデルに組織を超えたチームで価値提供

実装力
- お客様環境・業務フローに合わせた開発
- セキュリティ実装
- AIガバナンス



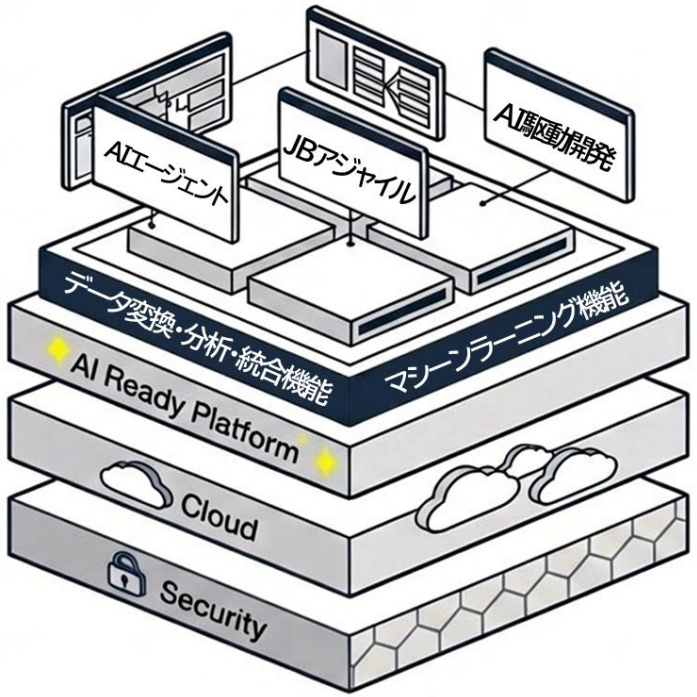
ビジネス理解力
- お客様業務・商習慣の理解
- お客様課題の把握

現場定着力
- 業務プロセス継続改善
- オペレーション定着に伴走

アセットの
活用と蓄積

AI Orchestration Platform

お客様がAIを利用・自走できるAIプラットフォーム



Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

Customer Innovation Team がお客様に提供する価値

業務起点とIT・データ起点の両面からのアプローチと、ガバナンス・セキュリティの横断支援により、構想から実装、定着・改善まで一気通貫で伴走支援

コンサルティング　エンジニアリング　定着・改善

業務プロセス再設計・実装

AIを前提に業務プロセスを見直し、業務アプリ／AIエージェントとして実装

業務起点 ユースケース開発

- 業務課題の把握・分析
- AIユースケース創出
- AIエージェント／AIアプリ作成

提供開始

経理財務　法務　人事　購買　総務　その他

業務における効果を具体化し、価値を検証

業務とITの両面から

IT・データ基盤起点 データ整備

PoC支援開始

- 既存システム・データの棚卸
- データ整備・連携
- AI活用に向けたAI Ready化

AIが活用できるデータ基盤を整備・構築

定着・継続改善



- 現場業務での定着支援
- 利用データの蓄積・分析
- 継続的な改善・機能拡張
- 新たなユースケース創出

現場で使い続けながら、継続的に価値を向上

利用・運用設計（ガバナンス・セキュリティ）

利用ルール	権限・認証	データ利用環境・統制	セキュリティ	モニタリング
利用方針／ガイドライン設計	ID・アクセス権限設計	データ利用ルール／連携設計	脅威対策・情報保護設計	利用状況／監査設計

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

AI Orchestration Platform — 企業で使い続けられるAI基盤の全体構想 —

AIを安全かつ継続的に業務へ組み込み、価値を生み続ける統合基盤

業務価値を高めるAIサービス

AIエージェント
11月サービス開始

- 業務プロセスの高度化
- AIによるBPOサービスの提供

AI駆動開発アプリ
11月利用開始

- 基幹システムからサブシステムまで仕様駆動開発

SIエージェント

分析
7月サービス開始

- データ分析・需要予測
- 異常検知
- 分析レポート自動生成

AI活用を支える差別化機能

差別化の源泉

長期記憶機能
（スタートアップ連携）

- 顧客固有の業務知識や文脈・履歴を蓄積・保持
- SIエージェントのコア機能

エージェント管理
11月サービス開始

- バージョン管理
- 実行状況・ライフサイクル管理

AIワークフロー
11月サービス開始

データとAIを連携し業務を自動化

テンプレート/部品化

ユースケースや部品をテンプレート化し再利用

データ連携
7月サービス開始

社内システム・SaaSなどのデータ基盤と安全に連携

データ統合・管理
7月サービス開始

- データ統合
- アクセス制御

安心・安全な継続利用を支える基盤と運用

AI利用統制（AIガードレール）
モデル・エージェント・入出力・利用ルールを統制

権限・認証
ユーザー/エージェントのアクセス・実行権限を管理

データ統合アクセス制御
データ統合／利用権限・アクセス範囲を制御

トレーサビリティ
AI／エージェントの処理・実行履歴を可視化

品質管理
応答評価・精度・プロンプト管理

モニタリング
性能・障害・利用状況の監視

クラウド＆セキュリティ基盤
高可用・高信頼のクラウド基盤と
ゼロトラストセキュリティで安心・安全なAI活用を実現

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

自ら変革し、その実践知で、お客様のAXを共創

自ら変革する　– 社内のAI活用・実践 –

社内実績　**全事業部門**でAIエージェントが稼働　|　**2,200**エージェント超

業務のAIエージェント化

kintone、Microsoft 365などのSaaSデータへ
AIを適用し、業務生産性を向上

データ×AI活用の拡大

社内データをAI Readyにし、業務横断で活用

エンジニア業務へのAI実装

- システム開発における、既存資産解析・仕様生成・要件可視化など上流工程からAIを適用し、開発の生産性を向上
- インフラ構築・移行における、提案からプロジェクト推進に適用、品質の平準化・属人化を解消

実践知の蓄積・資産化

社内での効果検証を通じて、
再利用可能な仕組み・ノウハウとして蓄積

AIガバナンス機能

利用統制、品質管理、監査・トレーサビリティなどの監視機能を実装

社内実装を通じて蓄積した知見を顧客提供へ活用

お客様の変革を支援する　– 提供・事業化 –

CIT（Customer Innovation Team）

経理・財務領域でCITサービスを開始
業務課題の分析から
AI適用・実装まで支援

AI駆動開発 / SIエージェント

上流工程向けSIエージェントをリリース
11月から
プロジェクトで利用開始

AIOP（AI Orchestration Platform）

AIエージェント基盤 サービス提供開始

導入事例　STNet　**四国電力グループ 株式会社STNet様**
AIエージェント活用を支える基盤構築を支援

データ分析基盤 サービス提供開始

導入事例　**建設・作業用ツールの製造業大手**
OT/IoTデータ*分析機能提供

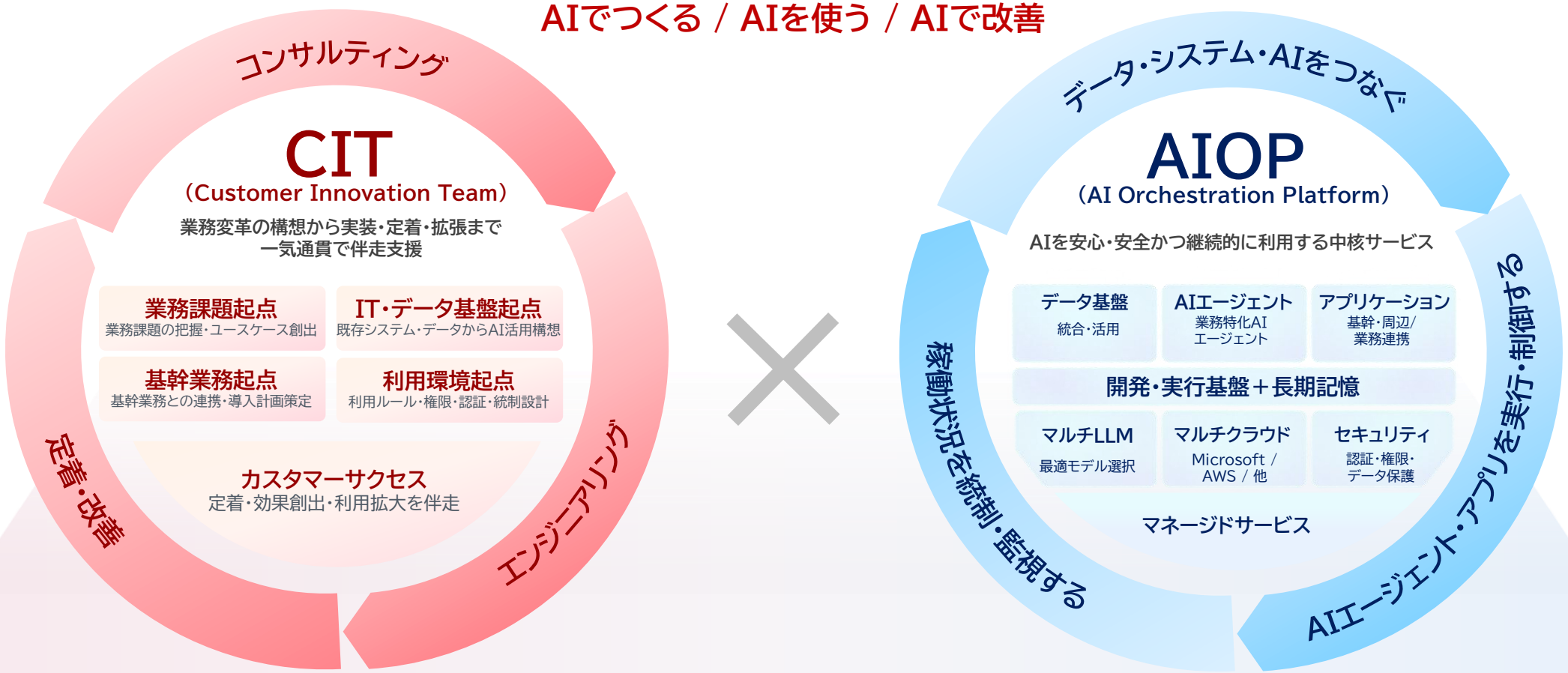
*OTデータ：工場設備や生産ライン等の制御・運用技術（Operational Technology）から得られる稼働・制御データ
IoTデータ：各種センサーや機器をネットワークに接続し収集する、モノのインターネット（Internet of Things）由来のデータ

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

AIサービスの価値提供モデル

AIOPをコアサービスに、CITによる伴走を通じて、お客様自身がAIを構築・活用・改善するモデルへ

AIでつくる / AIを使う / AIで改善



実践知
JBアジャイルで培ったノウハウ

顧客基盤
3,000社以上の顧客接点

伴走・運用力
構想から定着・改善まで継続支援

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

お客様の変革をAIで実現し、伴走する

AI Native Company

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.

● アンケートご協力のお願い

本日は、当社決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございました。皆様からご意見を頂戴し、今後の経営戦略、情報開示、IR活動の改善に活用させていただきたく、アンケートにご協力いただけますと幸いです。

JBCCホールディングス株式会社
経営企画 ［e-mail : ir@jbcc.co.jp］

Copyright (c) 2026 JBCC Holdings Inc.